
漆黒の蝶

浪打

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

漆黒の蝶

【Nコード】

N1828A

【作者名】

浪打

【あらすじ】

不思議な力を持つ少女マリスト「クレア少女は、その力を必要とされるところへ向かう。そこで出会った日本人の少年絢二郎二人にはある”共通点”があり…

居場所

そこは 森林が絶えず生えている原生林。
見渡す限りの 湖

そこに、一人の少女が立っていた。

「そろそろ・・・あの場所に行かないと・・・」

あの場所 少女はそう言った。そう言って歩き出していた。

少女・・・マリスト「クレア」：薄紫色の長い髪を両サイドに低く縛っている。

目の色は紫。身長は150cm位が無難だ。

そして、不思議な力を持った少女だ。枯れていた花をそっと持ち上げれば花は蘇る。

また・怪我をしている動物がいたら動物の怪我をしている部分に手を当てれば怪我は治る。

ようするに、全ての生命を蘇らせられる力だ。

彼女は怪奇な力を持ったばかりに 普通の人間から迫害されつづけていた。

そんな時、自分の力が必要な場所を見つけた。

長い、長い時間をかけて資金を貯め、旅に出た。

やっと森を抜け、着いた目の前の建物を見つめていた。

「ここ・・・かなあ？着いたのかな？」

「おい」

と、急に誰かに声をかけられた。

彼女は１メートルほど体を後ろに飛んだ。

「だ・・・誰なの？貴方？」

「ん？俺？絢二郎？お前は・・・？」

彼は優しく言った。

「わ・・・わた・・・しは・・・マリスト。マリスト「クレア」です。」

「そつかあ！じゃー。お前の事はマリって呼ぶぜ！俺の事は何でも良いよ。ヨロシクな。」

よ・・・ヨロシク？私まだ何も言っていないのに・・・

彼ー絢二郎君は建物に歩き出していった。

「ん？どした？早く着いてこいよ。」

「え？私・・・まだ貴方に何も言っていない・・・。」

おどおどしている私を見て絢二郎君は何かひらめいたようで私に言った。

「どうしてって？ココに来る人は大抵決まってるぜ？」

「決まってる？何が？」

「ここは、未知なる力をもった奴が、怪我人しかこねえからな。」

「未知なる・・・力？」

それって、私の事？

「お前。どういう力持ってるの？それとも怪我人？」

「どうして怪我人が出てくるの？ココ病院？」
彼女は何にも知らないみたいだ。

「ああ！ココは俺みたいな不思議な力を持った奴か、この森に迷い込んでココにたどり着いた病人しかこねえからな。」

私は啞然としていた。だって、病人だったら私の力で治せるから。

「でも、怪我した様子もないから、能力者だよね？何の能力」
優しく微笑み私に聞いてきた。

「えと・・・私の・・・能力は・・・全ての傷を癒す能力・・・」

始めて人にちゃんと話したな・・・まあ、今まで誰もこんな事聞かなかつたから当たり前か・・・

続く

必要（前書き）

ヒロインの名前が変わるので注意してください……

必要

「えと・・・私の・・・能力は・・・全ての傷を癒す能力・・・」

「うつわ！まじ凄いじゃん」

え？今なんて・・・？凄い？私が・・・初めて言われた。やっぱり
絢二郎君は優しいな・・・

「やっぱりマリここに必要だよ！早くおいで」。

でも、やっぱり初対面だし・・・心は全て開けない・・・
というかここ何なの？話には聞けたけど・・・実際どういう場所だか知
らないよ・・・

思いきって聞いて見る？聞いていたほうがいいよねえ？

「ね、ねえ・・・ここは・・・どういう場所なの？」

思いきって聞いてみた。すると絢二郎君はにっこり優しく微笑むと

説明してくれた。

「ここはね、一見怪しいけど、世の中に生息する悪の結晶『核石』を探してそれを破壊する。」

そして、俺はこの種族者！そして君も俺と同じく能力者v」

ん？そういえば絢二郎君の能力ってなんだろうなあ・・・聞こうつと。

「あの一。絢二郎君の能力は何なの？」

彼はちょっと拒んだが、やっぱり優しいのか口を開いてくれた。

「俺の能力？知りたいなら言っよ。えとなあ、俺の能力は周りの酸素を電気に変えて攻撃。」

「わあゝ。凄いなえ・・・」

絢二郎君は驚いていた。まさか私の口から

『凄い』

何て言う言葉が出てくるなんて思ってたのだろう。

「凄いかなあ？俺のこの力。危険だから皆から迫害されてたんだあ・

・・・」

え・・・絢二郎君も私と一緒になの？

「私も迫害されてたよ……あのね、皆不思議がつて近寄らなくなつて……それから……」

絢二郎君は私の口を手で押さえた。

「もういいよ。過去の話なんかしたくないでしょ？早く中に入ろうよ。ね。」

絢二郎君はなんだか悲しそうな顔をしていた。

口調もふるえていた。

これ以上言うのは私も良そう………思い出したくないもんね。

「こつちだよ！早くおいで！」

彼はさつきとは変わつていてとても明るく言い放つた。

きつと氣を使つてているんだ……私があんな話切り出したから……

「はやく来いって！置いてくぞ。」

と言つて彼は私の腕を引っ張つて半ば強引に私を建物の中に連れていった。

建物の中は広くて……でも、ちよつと寂しい感じ……しばらく奥に進んでいくと絢二郎君は立ち止まつた。

「絢二郎。只今戻りました。」

スーッとドアが自動に開いた。

「お帰り。怪我しなかったかい？おや、そつちの子は……？」
そつちの子……あ！私の事ですか？

どう反応して良いのかわからない私に絢二郎君は、言った。

「マリストⅡクレア。能力者です、カイス総監。」
総監らしき人の名前は カイスⅡラファエル というらしい。

「能力者?! そうか、絢二郎マリさんをお部屋に案内してあげなさい。」

え・いきなりなんなんですか?

そんな事言われても・・・私の能力とかきかないのお・・・??

「カイス総監…何所の部屋に案内するのかとか、どういう能力とかまず聞かないと…」

その面倒な事を嫌う性格を直してください」

絢二郎が困った様子・・・というより呆れた表情で言った。

「ああ! そうだね・・・でも性格は生まれつきだからどうしようもないんだよ。」

ああ・・・一体…何なのこの人…

「じゃあ、君の名前。変えても良いよ。」

…はい? なんで…名前を…変え…る必要があるの?

「あの・・・どうして名前を変えるんですか?」

私が質問したら満面の笑みでこう答えた。

「辛い過去を持った人や、今の名前が嫌いな人。など、様々な理由があるからだよ。」

実際。そこに居る絢二郎だって名前を変えたんだから。」

え？！絢二郎君…名前…変えたんだ…前の名前…聞きたいけど聞かないで置こう。
と、マリは思った。

「じゃあ…漣 真衣 がいいです。」

何故か、イギリス出身のマリは、日本人風の名前を口にした。

「そう。じゃ、君の歳は？能力は？」

「えっと…歳は15歳。能力は全ての傷を癒す能力、です。」

「へえ…凄いね。じゃ、データ揃ったし。部屋の説明と行くか。部屋は絢二郎の隣でいいかい？それとも同じ部屋でもいいんだよ。」

絢二郎と一緒に部屋…それを聞くとイツキにマリ「真衣は顔が赤くなった。」

「じゃあ、絢二郎。真衣ちゃんを部屋に連れっけて。」

結局何所になったんだろう…と真衣は思いながら真衣はドアへと歩き出した。

絢二郎は慌てて真衣を追いかけていった。

「青春だねえ…いいな。僕も可愛い子欲しいな。」

と、絢二郎達が去った後に呟いたカイス総監…

「真衣！」

彼女はふっとした！というよりいきなり呼ばれて吃驚したのだろう。

「え…あ…何？」

「何で『漣 真衣』って名前にしたの？由来は？あ！ちなみに俺が

名前変えたのは女っぽい名前が嫌いだったから。ついでに、前の名前は『クリス・アルフォート』あ！俺ばっか喋ってゴメン。」

真衣は驚いている。まさか、自分から由来を話すとは…

「で！真衣は何で？話したくなかったら良いよ？」

理由は絢二郎とつりあいたかったから日本人みたいな名前にした。何て言えない。

「あ…後で…言う。」

「そつか！じゃあ、楽しみにしてるぜ！」

と言うとまた、絢二郎は立ち止まった。

「ねえ。俺と一緒にの部屋で良い？」

真衣は顔がイッキに紅色に染まっていくのが分かった。

「な…何…で…？」

「あーいや…その…何だ…俺…真衣の事好きになっちゃったんだよね。」

思いがけない言葉だった…

続く

必要（後書き）

ご……ごめんなさい……。ちょっとファンフィクション
入ってしまいました

でも、一応次の予定ではラブラブにするので。

というか話が見えないですね……

意味がわからなくなっちゃいました……

でも読んでもらえたら嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1828a/>

漆黒の蝶

2010年12月13日23時32分発行